

① 池上彰 著

『ニッポンの大問題：
池上流・情報分析のヒント44』

(文藝春秋)

ニュースに出てくる用語は知っていても、その内容はよく知らないという事があります。著者は日本だけではなく世界で何が起きていて、何が問題なのかを解説しています。本書を読むとメディアで報道されているニュースは事実の一面でしかなく、その経緯や背景などを知る事が大切であるのが理解できます。簡潔に書かれているので、時事問題が苦手な人でも大丈夫。日本は外国との繋がりが益々重要になっている現在、本書をきっかけに、様々な問題に目を向けてみませんか？ (T.F.)

304 ||Ike

③ 泉谷渉 著

『世界が驚くニッポンの医療産業力』

(東洋経済新報社)

日本の医療サービスは世界でもトップクラスです。そしてそれを支えているのが日本のメーカーが生み出す医療機器です。日本の高水準なITと半導体技術を応用した医療機器は世界からも認められ、そのシェアを拡大しています。

本書では企業、医学系大学を中心に著しい進歩を見せている日本の医療産業の現状を紹介しています。国際間における日本の競争力が問われる昨今、医療分野において世界の先端を走る日本の技術力の高さを充分理解できる一冊です。(H.M.)

492.8 ||Izu



② 近藤麻理恵 著

『毎日がときめく片づけの魔法』

(サンマーク出版)

「今日も片づけが終わらなかった。もっと捨てて、すっきりしないと。」と頭を抱え込んだ事はないですか？

本書で、著者は片づけとは、ひたすらモノを減らすことではなく、自分の理想の生活を思い描き、思い描いた生活に近づけるためには、何を手放し、何を大切に残すか取捨選択する事だと説いています。その取捨選択する力をつける事が自信を深める事になり、そのためにはしっかりと自分と向き合い、対話することが大事だと柔らかな語り口で力説しています。片づけの始め方から、具体的なテクニックに至るまで写真を使って詳しく、丁寧に解説しています。この本を読み終わる頃には、きっと片づけの魔法にかかっているかもしれません？！ (S.S.)

597.5 ||Kon

④ C・W ニコル 著

『鹿肉食のすすめ：日本人は鹿肉で救われる』

(東京環境工科学園出版部)

欧米、特に北欧はシカが多く生息し、その肉を食べる習慣があります。一方、我々日本人には四足動物の食事を禁じる仏教の影響もあって、シカ肉を食べる習慣そのものが余りありません。しかし、シカも頭数が増えすぎると生息する植物を減少させ、かえって生態系を歪めることとなります。

シカは、シチュー、ハム、コロッケなど料理用途も広く、一頭から100人分の食事が作れる栄養価の高い動物です。イギリス人作家の著者は、自らもシカを狩った経験から、シカの調理法やレシピだけでなく、狩り方から解体の仕方、保持していると思われる病原体にまで言及しています。シカという動物を知る必携の書です。(H.I.)

648.2 ||Nic